

司式: 佃 雅之
奏楽: 山田絵里

前奏: 「われらに救いは来たりぬ」 (D. ブクステフーデ)

招詞: ヤコブよ、あなたを創造された主は イスラエルよ、あなたを造られた主は 今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。(イザ 43:1)

讚美歌 4「世にあるかぎりの」

交読詩編 51:1-11

01 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。

02 ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

03 神よ、わたしを憐れんでください/御慈しみをもって。深い御憐れみをもって/背きの罪をぬぐってください。

04 わたしの咎をことごとく洗い/罪から清めてください。

05 あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

06 あなたに、あなたのみわたしは罪を犯し/御目に悪事と見られることをしました。あなたの言われることは正しく/あなたの裁きに誤りはありません。

07 わたしは咎のうちに産み落とされ/母がわたしを身ごもったときも/わたしは罪のうちにあったのです。

08 あなたは秘儀ではなくまことを望み/秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。

09 ヒソブの枝でわたしの罪を払ってください/わたしが清くなるように。わたしを洗ってください/雪よりも白くなるように。

10 喜び祝う声を聞かせてください/あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。

11 わたしの罪に御顔を向けず/咎をことごとくぬぐってください。

朗読聖書①ヨエル書 1:13-20

◆いなごによる荒廃(後半)

13 祭司よ、粗布を腰にまとい嘆き悲しめ。祭壇に仕える者よ、泣き叫べ。神に仕える者よ、粗布をまとい夜を明かせ。献げ物の穀物とぶどう酒は、もはや/あなたたちの神の宮にもたらされることはない。

14 断食を布告し、聖会を召集し/長老をはじめこの国の民をすべて/あなたたちの神、主の神殿に集め/主に向かって嘆きの叫びをあげよ。

15 ああ、恐るべき日よ/主の日が近づく。全能者による破滅の日が来る。

16 わたしたちの目の前から食べ物断たれ/わたしたちの神の宮からは/喜びも踊ることもなくなったではないか。

17 種は乾いた土の下に干からび/穀物は枯れ尽くし/倉は荒れ、穀物倉は破壊された。

18 なんと叫ぶか/牛の群れがさまよひ/羊の群れが苦しむのは/もはや、牧草がどこにもないからだ。

19 主よ、わたしはあなたを呼びます。火が荒野の草地を焼き尽くし/炎が野の木をなめ尽くしたからです。

20 野の獣もあなたを求めます。流れの水は涸れ/火が荒野の草地を焼き尽くしたからです。

朗読聖書②ルカによる福音書 10:13-16

◆悔い改めない町を叱る

13 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の

中に座って悔い改めたにちがいない。

14 しかし、裁きの時には、お前たちよりまだティルスやシドンの方が軽い罰で済む。

15 また、カファルナウム、お前は、/天にまで上げられるとでも思っているのか。陰府にまで落とされるのだ。

16 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。」

祈祷

私たちの命の源であり、永遠に私たちを導き、守ってくださる父なる神さま、あなたの聖なる御名を心から褒め称えます。どうぞ天と同じように、この地にもあなたのご支配がなされますように。この地上で、あなたの御心を実現して下さいますように切にお願い致します。

父なる御神、私たちが今、ここに集められ、共にあなたを呼び求め、あなたに聞き従うことが許されていることを感謝致します。あなたは、あなた御ひとり子であるイエス・キリストの十字架と復活において、私たちの罪を贖い、私たちに自由にして、あなたの子として、光の中、喜びに満たされて、歩むことができるようにしてくださいました。あなたが、イエス・キリストを通して私たちと出会ってくださり、私たちは今、あなたに、より頼みつつ、あなたが約束してくださった永遠の命に希望を見出して生きることが許されています。この大きな恵みを重ねて感謝致します。

私たちの主よ、あなたの御前にあって、私たちは、欠け多き脆い土の器であることを悟ります。ここに献げます礼拝によって、私たちが自分の罪の深さを自覚し、何よりも、大きく深いあなたの愛に救われて、生きるものとなったことを覚えることができますように。誰一人として正しい者のいないこの群れを、創設の日以来 100 年の間、変わることなく育み、支え、励まし続けてくださいましたことを覚えます。どうか、これからも変わることなく、この群れをお守りください。ここで、語られ、聞かれ、祈られる全てのことを、あなたご自身が作り出してください。

自由と正義の神、この礼拝にあって、私たちが、あなたの与えてください、信教の自由の大切さを思い起こすことができるようにしてください。そしてまた、この自由を奪おうとする諸々の力に対して、いつも目覚めていることができますように。そのために、正しく物事を見抜くことのできる澄んだ眼差しと確かな信仰を私たちに与えてください。

私たちの主よ、世界各地にあるキリストの名による教会のために祈ります。今時を同じく同じ霊に導かれて礼拝を献げている全ての教会を御心のうちに覚えて顧みて下さい。その一つひとつの教会をインマヌエルの神であるあなたを証する群れとして立たせてください。

今、戦禍にある国や地域で、また被災地で、あなたの福音が響き渡りますようにと切に祈ります。

憐れみ深き主よ、この礼拝を覚えながら、ここに来ることができない、愛する兄弟姉妹の多いことを思います。あなたの慰めを求める全ての者に、癒しの御手を差し延べてください。今、病床にある者、その介護のために仕えている者、高齢のために、また、教会から遠ざかり主の名を呼ぶ力を失っている者を支えてください。どうか、この教会に連なる一人ひとりに必要な慰めと癒しと励ましをお与えください。

私たちの主よ、今日の説教者を感謝致します。御言葉を取り継ぐ者の口を、あなたの口としてください。語る者にも聴く者にも、聖霊を豊かに注

いでくださり、福音の真理を悟ることができるようにしてください。

あなたがこの礼拝の真の主催者とおして、この所に共にいてくださいますように。

これらの祈りを主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讚美歌 442「はかりも知れない」

説教「威光・尊厳・栄誉」

鮎川健一

受難節を目の前にひかえ、日数も短い2月の最終週を進みます。今朝は受難節の緊張感を前に、懺悔と感謝の祈りをもって、神の御心の計り知れないご計画を、こころ静かに受け止めます。なおこの世の戦いの中で、真理の信仰に堅く立つべく祈り求めて新たに出発した教会の歴史を受け継いでいます。教会の歴史は常に前途多難の中にあり、苦難や艱難の時を乗り越えて、神の豊かな御業の中へ招かれていること、信仰の内に受け止めます。

今朝の御言葉は、一般的にもなかなか受け入れられないもの一つになっています。それも大方の場合、「主は愛の方であるから、このような表現はふさわしくないのでは」と多くの躓きを感じ、よく判らないどころか、「このような言葉は聞きたくない」との感情が浮かんでいるわけです。更には、「何故に主はこのようなことを言われたのか」と、疑問と同時に混乱するという事態にもなっているわけです。

聖書には裁きの言葉が多くあります。それも『裁きの預言』という形をもって、特に旧約の預言書は、裁きの言葉で埋め尽くされているとも言えます。由々しきことに、今も昔もですが、牧師の中でも、この裁きの言葉を正しく読まず、勝手な用い方で人々に恐怖を煽り、自分はさて置き懺悔を迫る者もいます。しかしそれは聖書の真理から逸脱しています。それぞれの預言書は、来たるべき主、インマヌエルなる神の到来を告げる中で、人々を真理に導くために悔い改めを指し示しています。神は私たちが滅びることを望んでもいないし、施しようもなく諦めてもいません。もしそうならば、旧約の時代で全世界は消え失せています。しかし今に至って神は、「この荒れた世界を何とかして救いたい」との思いの中で、心を痛め忍耐しながら、「今のようなことを続けてはいけぬ、滅んでしまふ。悔い改めなさい。救いの道、真理の道を歩みなさい。」とされているのが裁きの言葉です。まさに恵みの言葉です。「裁きを通して救いが実現される」、この逆説的な示唆に福音の確かさと喜びが溢れているのです。そこで思いますに、滅んでも仕方ないなら、預言者を送る必要がないということになります。聞く耳を持たない者、悔い改めない者に対し、「勝手にせよ、自滅せよ」と突き放すのみになってしまいます。聖書の言葉は神の言葉ですが、これを「冷酷無礼」と捉えるか、「真理の道に導く厳しき言葉」と聞くのか。分かれ目は、「神は優しい」としか受けなければ、御業の全てが失われます。しかし「信仰者として自立する」ならば、「厳しくも愛ある言葉で導いてくださるのが救い主なる神と心す」ならば、裁きの言葉から、なお強く豊かに真理の道へと導かれます。聖書の言葉を一度や数回、また一年やそこらで完璧に理解でき、自分で読めば完結するということにはなりません。生涯かけて読み続ける、聴き続ける、それが信仰者の歩みです。

今朝の13節以下の主の言葉は、「裁きの日には大きな罰を受ける」と宣告された町があります。コラジン・ベトサイダ・カファルナウム、この三つの町

です。それらは、みなガリラヤ湖の北側にあります。ガリラヤ地方は、主が最初に宣教活動を開始され、多くの奇蹟を示された所でしたし、ベトサイダは、主の弟子、ペトロ・アンデレ・フィリポたちの故郷でした。またカファルナウムは、主が宣教された時の中心地です。主はこの町で説教をし、多くの癒しの奇蹟を残しました。以前にも何度かお話したことがありましたが、『ガリラヤの風かおるあたり』と讚美歌で歌われるごとくに、『ガリラヤの春』と表現される言葉があります。主が宣教を開始された初めの頃、多くの人々に受け入れられ、意気揚々とした日々を表現する言葉です。しかしよく考える必要があります。それならば、どうして人々に「悔い改めて、福音を信じなさい」(マコ1:15)と告げられたのかということです。その裏には、実は主がこれらの町々では非難ごうごうで石投げに遭ったとも受けられません。それだからこそ、何度も語り祈り続けても受け入れられなかった事態があり、そこで主は、それなら「滅びるしかない」と髪を振り乱して嘆いておられる光景が浮かびます。聖書には、「コラジンよ、あなたは不幸だ。ベトサイダよ、お前は不幸だ。」とありますが、元の文には「不幸だ」と、明確に示した言葉はありません。そこには、「ああまたはおお」と言うような嘆きの言葉があるだけです。「ああ(オウアイ οὐαι)コラジンよ、あなたは。ああ(オウアイ οὐαι)ベトサイダよ、あなたは」という文章です。主が嘆かれるほどに深刻です。この嘆きは、この世界にも告げられています。私たちが進んでこの主の嘆き、神の嘆きを聞かなければなりません。この嘆きを聞くことで、「主を嘆かせたくない」、そのように思い、「心して主の道を歩みます」と決心するものでしょう。

また更にティルスとシドンという町の名前が出て来ます。この二つの町は昨今のニュースでも話題豊富ですが、地中海に面した町で、当時はギリシャ系の人々が多く住んでいた貿易都市です。つまり異邦人の町です。主は、ここで釘を刺します。「三つの町は、ティルスやシドンに比べて豊かな救いの恵みを受けた。にもかかわらずそれを拒んだ。だから恵みを受けなかった者よりも、もっと大きな罰を受ける。」とされたのです。ここには、「将来の異邦人の救い」ということも預言されているところです。私たちが例外ではなく、聖書の文脈からは異邦人であり、救いから遠い民です。ところが神の憐れみの中で、異邦人であるにもかかわらず神の救いの中に入れられ、神の民とされました。まことに感謝に堪えないことです。

そこで主は72人の弟子たちを遣わされる最後にこう言われました。「あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。」(16節)と。彼らは実に主の代理者、神の代理者ということです。「主の弟子たちを受け入れる者は主を受け入れるのであり、それは天地を造られた神を受け入れることだ」と言うのです。

その逆も「然り」です。「主の弟子たちを拒む者は主を拒むのであり、それは父なる神を拒むことになる。主を受け入れ主を信じる者は、父なる神を受け入れ信じる者であり、その者は全き救いを与えられ、神の子とされ、永遠の命に生きる者とされる。」というこの一連の流れの教えです。これこそ「然り」と受け止める言葉です。しかし「拒む者は裁きの日に罰を受ける。」、つまり「滅びる。」と宣告されます。厳しい神の現実、真理です。救われる者がいるならば、救われない者がいる、滅びる者がいるということです。すべての人々が何もしないで救われることはありません。なぜならば、滅びがなければ救いもないからです。救いは、滅びから救われるということです。だからこそ、悔い改めの宣告が恵みに変えられる道へと向かいます。まさに裁きから恵みがもたらされる、十字架の痛みなくして復活の命なしとなるのも、ここから始まります。

しかしここで、「自分は救われるのか、滅びるのか。」と不安になる人もいますし、教会から離れる原因の一つにもなっています。しかしそれは理解不十分と言わざるを得ず、取り越し苦労ともなります。主の福音の根幹は、救いへ招くのであって、真っ向から滅びへ追いやる思いはないということです。しかしだからとて、何もしない、何も考えないで勝手に振舞っても無条件に救われるということにはなりません。私たちは主の救いへの招きに信仰をもってしっかりと応えることが重要になります。心配や不安になっている場合ではなく、主にしっかりとつながって従い行くことに心を留めるものです。

先程、「主から遣わされる弟子たちは主の代理者、神の代理者」と申しましたが、それは、何か主の福音を告げる者が偉くなる、完全な者であるとは言いつてもありません。価値があるのは私たちではなくて、私たちの告げる福音、証しする主の御業であり、宣べ伝えておられる主イエスという方です。十字架と復活、それこそが価値あるものです。ここでの勘違いは、それこそ滅びに至ります。私たちが人々を罪の淵から救ったり罰して滅ぼしたりする訳でもなく、決定打を持っていたり、最終決定権を知って持っている訳でもありません。全ては神が為さることで。ただ私たちは、「主から遣わされた者として、人々に告げ知らせよ」と言われたことを告げていくだけです。しかしそれは実に大きな意味を持っています。人々の救いとこの世界の救いが、私たちにかかっているからです。教会の死活問題でさえかかっています。ですから、より深くもつと真剣に、真正面から主の御心なる御言葉を受け取らなければならないのです。確かに私たちは弱く小さく欠けの多い者です。罪人です。だからとて、それで「何やかんやと揶揄されるもの的外れ」ですが、それでも、だからこそ私たちは主に捉えられ、救われ、更には主の福音を告げていく者、神の代理者とされている、それが神の目から見た私たちです。信仰の帯を締めなおす必要があります。私たちはこの世界の救いのカギを握っている者です。

使徒パウロの言葉を思い起こします。ロマ書(5章)の中で、個々人に対する信仰生活の喜びと共に、罪と死に支配されるこの世界に対して、主による恵みの勝利を高らかに歌い上げています。その場面の最後には、こうあります。「罪の増すところ恵みもいや増す(20節)」。福音信仰の核心に触れています。この使信は、神の恵みはイエス・キリストの十字架による罪の赦しに他ならず、私たちは真剣に神と向き合い、求道すればするほど自分の罪深さを示され、如何ともしがたい罪と死の問題に触れることになります。罪と死を究極的に考えるところに置かれ、真実を受け止めようと促されるころにあつて、信仰者は生涯求道者として位置付けられます。「永遠に求道者」ということです。洗礼を受けた時から、その道がより本格的に始まるわけです。牧師も「然り」です。ですから、自分の生き様の根幹と向き合い、この世に命を受けてある今を思うとき、課題多きこの世の苦しみが深いほどに、罪の赦しの福音が豊かな恵みとして与えられ、神の憐れみ深きことを知らされ、受け止めることができるのです。ここにこそ、真の喜びと感謝と希望があります。この世に唯一、『威光、尊厳、榮譽』を伴った主イエスの御名と、その出来事を知らしめるべく、私たちは感謝のうちに主に応え、御国の世継ぎとして、真の信仰へと進み出で行く者でありたいと切に祈ります。

祈りを献げます。

世界の救い主なる、御子イエス・キリストの父なる御神さま、御名を崇

め讃美致します。二月最後の主の日に、あなたを讃美・礼拝でき、感謝致します。御子イエスの御降誕から御生涯を想い起し、十字架の道を進む受難節・レントの直前にあつて、あなたを礼拝するに相応しい信仰と生活が清め正されますように。主はイザヤを通してこう告げられました。

「立ち帰って静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある。」(イザ30:15)と。そう告げられたように、崇敬の念をもって信仰に生きることができるよう。混乱の只中にあつても、あなたへの信仰が守られますように重ねて願います。

御心を祈り求める夫々の教会の祈り、主にある平和を祈り求める信仰の友の祈りと共に、主の御栄光を見上げつつ、尊き主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌：294「ひとよ、汝が罪の」

献金・感謝(芳賀文子)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

ご在天の父なる神さま、降誕節第9主日の今日、リモートや教会の中で、あなたとあなたへの礼拝を、主にある兄弟姉妹と共に献げられました恵みを感じ致します。また、今日は久しぶりに鮎川先生のお説教をお聞きしました。鮎川先生をお守りいただき、またこの機会をいただきましたことを感謝致します。説教を通して、豊かに御言葉を与えてくださり感謝致します。信仰をもってあなたの御声に耳を傾け、主の嘆きの声が聞こえますように。また、悔い改めによって真理への道へと誘う神さまの救いの言葉を受け止め、またそれを伝えることができますように。あなたの威光、尊厳、榮譽を伝えることができますように。

私たちがこの1週間を夫々の旅路の中で、この御言葉を糧として歩むことができますようにお導きください。

私たちは、必要な物を与えられ、主の僕として生きることが許されていることを感謝致します。今、夫々が与えられました物の中から、感謝と献身のしるしを御前にお献げ致します。どうぞ祝して教会の御用のためにお用ください。

主が教えてくださった「主の祈り」を共に祈り、新しい今日を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣・讃美歌 88「心に愛を」

祝福(佃牧師)：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなた方一同と共にあるように。アーメン

報告：重ねての献金要請：『部落解放センターへの献金』次週3/2日まで。

後奏：「われらに救いは来たりぬ」(H.シャイデマン)